

平成 29 年 9 月 15 日

## 新潟空港の路線ネットワーク戦略 中間報告をとりまとめました

新潟県では、新潟空港の利便性向上を重視した新たな航空ネットワークの構築を目指し、国際ハブ（拠点）空港における乗り継ぎ利便性の向上等を主要方針とした「新潟空港の路線ネットワーク戦略 2012」を平成 24 年 2 月に策定しました。

その後 5 年が経過し、国際ハブ空港である成田空港への路線開設や台北線の通年運航が実現した一方、首都圏空港への路線の一極集中による影響や、訪日外国人観光客の急増など航空を取り巻く環境の変化が生じています。

このような状況を踏まえ、新潟空港のさらなる利便性向上と航空ネットワークの充実に向け、このたび「新潟空港の路線ネットワーク戦略 2017（中間報告）」をとりまとめたので、お知らせいたします。

今後、県議会、航空関係者や学識経験者などのご意見もいただきながら、さらに検討を進め、年内を目処に改定する予定です。

本件についてのお問い合わせ先

交通政策局空港課 北村、玉井

（直通）025-280-5470（内線）2390

## 「新潟空港の路線ネットワーク戦略 2017（中間報告）」の概要

### 1 新潟空港の路線ネットワーク戦略 2017 とは

新潟空港の路線ネットワーク充実と空港の利便性向上を目指す上で、県と関係者が目標、方針等を共有し、関係者一丸となった取組を行うための行動指針

### 2 現行戦略について

- 新潟空港の利便性向上を重視した新たな航空ネットワークの構築を目指し、国際ハブ（拠点）空港との直行便充実等を主要方針として平成 24 年 2 月に策定。
- 国際ハブ空港である成田空港への路線開設や台北線の通年運航が実現。

### 3 中間報告の内容

○ 新潟空港をとりまく現状と課題

○ 目標

利便性が高い空港づくりを推進し、新潟空港の更なる拠点性向上を図るため、路線ネットワークの拡充を目指す

（利用者数：〔H28〕 99 万人→〔H32〕 135 万人（国内 110 万人、国際 25 万人）  
航空便数：〔H28〕 177 便/週→〔H32〕 196 便/週（国内 175 便、国際 21 便）

○ 4 つの戦略

① 北東アジアに対する日本海側の航空路の表玄関としての地位の確立

- ハルビン線（週 2→4）、極東ロシア線（11 便→24 便、夏季チャーター）
- 北京線、大連線の誘致

北東アジア地域に対して地理的・時間的優位性があること等を踏まえ、ビジネスや観光の拠点として発展させ、日本海側の表玄関としての確固たる地位を確立する。

② 訪日外国人観光客の増加が見込まれる地域への路線の拡充

- 台北線（週 2→4）
- 香港線、高雄線、東南アジア方面からの路線・チャーター便の誘致

イン・アウト双方の需要が見込める新規路線の開設に取り組む。

③ 国内外の主要地域（都市）との同日到着を実現するための路線の充実

- ソウル線（週 3→7）、上海線（週 2→4）、成田線（午前便の増便）
- 佐渡－新潟線の確保

ネットワークをさらに充実させ、利用者の一層の利便向上を図る。

④ 新たな利用者層獲得につながる LCC 路線の誘致

- 関西国際空港線、イン、アウト双方の需要が見込まれる路線の誘致

従来航空機を利用しなかった層など新たな利用者獲得に向け誘致を進める。

○ 戦略具現化に向けた取組の方向性

（既存路線の充実、新規の国際路線・LCC 路線の誘致）

○ 利用者拡大・路線充実に向けた具体的取組

（戦略的エアポートセールス、空港アクセス改善、利便性が高く魅力ある空港の実現等）